



新任の挨拶

OB会新会長

阿部祐之(56期)



去る六月、平成十五年度のOB会総会が、多数の会員の参加の基に、盛會裡に開催されました。

事を伺い、ご理解とご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。私事ながら、この度OB会会長の

大役を仰せつかることとなりました。浅学非才の私が、会員の皆様方のご期待にどれほどお応えでき

るかと甚だ危惧されることとありますが、新役員の皆様と共に一致協力して、精一杯努めて参りたいと思

います。どうか皆様方の格段のご支援の程をよろしくお願い致します。

「剣風」
題字:細川武敏(41期)筆
OB会報第11号
平成15年12月1日発行
制作:c b 鼓 囃 子

当時の防具については、「剣風四号」戦後の剣道班のあゆみの写真にその様子をみる事ができますが、きちんと揃った防具を着用する者は少なく、寄せ集めの防具で稽古する者が多かったように

思います。胴一つをとっても、皮胴、竹胴、一枚皮の塗り胴(これは装飾用の物と思われる)と様々

なもので、身に着けている時はその形態を留めていますが、取り外すとあの湾曲型の形態を留め

ては、簾の如く伸びてしまいう物さへありました。打たれた実感を確実に実感できる防具でした。

齢六十六・退任します

前会長 桑沢俊猛(54期)

の活動であったからだと思えます。四十数年たった今、かつて先輩や仲間から頂いたご支援を、現役の皆さんに何らかの形で還元できればと考えるが、OB会の益々の発展を祈る昨今です。

世間の大抵の方が引退される歳に会長をお受けしましたので、いやはや何とも頼りないかぎりでした。ただ、役員諸兄に心強い個性派が揃いましたので非常に楽をさせていただきました。役員の方

が、私がとうございました。またOB会発足後十年という記念年を務められて、とても嬉しく思っております。

さて、退任となるとどうしても過去を振り返らざるを得ないので、昨年「剣風」10号で「OB会発足から早十年」と題して感想をかきました。そこで、補足の意味でメモ程度の感想をい

ま少し書かせていただきます。何と云っても「剣風」の発刊です。OB会発足に因んで会報発行をしたいかねがね思って居りましたので、これは強引に主張した記憶があります。予算との兼ね合い等で尻込みする諸君もいたが、私には少々経験もあり自信がありました。ともかく理事会での承認も得られ発行の運びとなりました。会報名は腹案を幾つか用意して居りましたが、その中の剣風・剣友が有力候補となり、全員一致で「剣風」に決まりました。

新役員名簿

Table with 2 columns: Position (e.g., 顧問, 副会長, 幹事長) and Name (e.g., 萩原秀治, 大石俊治, 桑沢俊猛).

副幹事長 工藤武和(67期)

これまで仕事や私生活の中で何百回となく様々な判断、決断を繰り返して現在に至っていますが時には「死」の文字も浮かんだことが何回かありました。そんな時、剣道で体験した様々な行動とその結果を思い出し、結論を出していることも多いです。

知恵は体験から得られるもの。人生の一時期を同じ剣道班で過ごした後輩に先輩達のその知恵を活かせるよう、またいろんな情報を得られるような場作りをすることがOB会役員の方々の重要な役割と考えております。

副幹事長 関戸啓司(74期)
最近の高校剣道は、自分の頃とはまったく違う競技です。全体のレベルは格段に上がっていますが、何か大切なものが無いような気がします。と、評論しかできない74期、関戸ですがよろしくお願ひいたします。

副幹事長 近藤敏朗(82期)
上田高校剣道班のOB会には、心から尊敬できる先輩が大勢いらっしゃいます。現役生の活動の応援や、諸先輩方の結びつきを深めるため微力ながら頑張ります。

会 計 神津 純(77期)
高校の教員をやっています。片道47kmの通勤です。はやく、片道7kmの通勤のできる学校に行きたいと思っています。「拒否」を許されぬ羽田先生からの命令で会計になりました。よろしくお願ひいたします。

会 計 監 査 佐藤 博(76期)
これまで会計として実務全般に携わり、存じ上げなかつた多くの諸先輩方と交流させて頂き感謝しております。この度引き続き会計監査としてご指導ご鞭撻のほどお願ひ申し上げます。

会 計 監 査 矢嶋智弘(83期)
ずっと宴会部長でいたのですが、一番にがてな分野を引き継いでしまいました。いたらぬ所が多々あると思ひますが頑張りますので、よろしく御指導お願ひいたします。

幹事長 若林 健(65期)
この度、微力ながら幹事長を仰せつかりました。会員の皆様には少しの犠牲と多大なるご協力をお願いすることと思ひます。OB会を為、倍旧のお力添えを宜しくお願ひ申し上げます。

副会長 清水 潤(57期)
戦後、剣道部が再開されてから四回目のOBとなります。在学中に基礎を学び、卒業後、夢中になつて稽古に打ち込んだ時期がありましたが、勤めの忙しさから、しだいに練習から遠のき、今は全く防具を付けることはなくなりました。当時の稽古着や防具を大事に取つてあります。みなさんのお役に多少でもなればと考えています。宜しくお願いいたします。

副会長 工藤 泉(63期)
役員として長期になりました。地元で剣道スポーツ少年団の指導や中学校剣道部顧問など、多少とも剣道と関わっている者の務めと覚悟し、副会長の任に当たつてまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

副会長 関 省吾(71期)
会長になられた阿部祐之先生から東部中学時代に指導を受け、二年生で初段をいただきました。剣道形の練習を、今はない上田武徳殿で上田高校剣道班の先輩の方々とともにしたことを思い出します。

副会長 関 省吾(71期)
この度、微力ながら幹事長を仰せつかりました。会員の皆様には少しの犠牲と多大なるご協力をお願いすることと思ひます。OB会を為、倍旧のお力添えを宜しくお願ひ申し上げます。

☆第一回☆ 宮下杯に想う

先輩に学び育つ上田の剣道 前幹事長 羽田敏幸 (61期)



故 宮下 力先輩 宮下杯争奪戦に先立ち、現役生による「第一回宮下杯争奪戦」が行われた。

この「宮下杯争奪戦」については『剣風10号』でお知らせしたように、昨年四月にご逝去された宮下力先輩(38期、旧後援会副会長、OB会顧問)の奥様より、先輩のご遺志としてOB会にご寄付をいただき、それを基金として今年より始まった。

当日は、三五名の部員の熱の入った試合が展開された。入部間もない一年生から、引退したばかりの三年生が真剣に対戦し地区大会並の、いやそれ以上の内容の試合が数々あったと思う。結果は男子新井雄太君(3年)、女子大森碧さん(3年)が最初の優勝杯と副賞の木刀を宮下先輩の弟さんの英世氏(44-4期)と桑沢会長より授与された。この大会が、今後現役生の大いなる励みになることを故人とともに期待したい。宮下力先輩について詳しくは、『剣風』10号の英世氏から寄せていただいた記事をお読み下さい。

戦後、現剣道班が発足した当時(昭和三十年代)に剣道を始めた我々にとって、上中時代の剣道部の大先輩は先輩であるよりは師であった。上田公園内にあった武徳殿では、昭和二十七年に発足した上小剣友会(現上小剣道連盟)が小宮山太助(17期、上田市助役)会

長のもつとで活動しており、春原新三郎(64期、春原和民君のご実父)、塚原厚、渡辺寛(72期、上羽昌美君のご実父)、西沢貞二、山内英作先生など在住の諸先生方と依田嘉人(32期)、田中淳夫(33期)、塚原忠雄(36期)、宮下力(38期)、大石治(41期)先輩など上中剣道部出身の剣士が消防署や市役所の愛好家に指導をしていた。当時、高校の剣道部で竹刀をもって指導する顧問は県下でも極めて少なく、東信大会なども審判がそろって上田でしか行えないのが実情であった。復活した上田の剣道班を熱心に指導してくれたのがこのような先輩であった。しばしば学校の古い道場に防具を担いで稽古にこられ時には、警察学校まで稽古に連れて行って下さった。この頃防具は高価で個人で揃えることはほとんど不可能で寄せ集めの物をみんなで融通して使用した。継ぎを当てた面、左右違った小手、ペしゃんこになった竹の胴、これを着けて試合に出ていたものである。そして昭和三五年、インターハイ初出場が決まった時に、後輩のみすばらしい姿を見かねたOBの先輩有志が寄附を募って防具6組と剣道衣・袴6着を寄贈してくれた。これが契機となって「剣道班後援会」ができ、平成五年に現「OB会」に改組するまで多大な後援活動を行ってきた。

現在も、遠く千葉・釜石から大先輩が、また県内在住者ばかりでなく大阪・岐阜・東京・埼玉など県外から、そして学生が帰郷の折りに後輩の指導にしばしば母校を訪れている。昔も今も先輩に学び育つ伝統は続いている。

今

仁木邦彦

顧問雑感

昔 剣道 今 昔

校友会誌 昭和八年

昔

七月二十四日

今日から一週間ばかり松尾ヶ岡とお別れだ。助手一同復讐の念にもえ、大學上京し高野佐三郎範士の修道學院に入る。伊藤先生引率、村上兄監督の下に、山浦、矢島、横澤、有賀、瀧澤、益淵、田中、小泉、宮尾、村上弟及び先輩大塚君の大勢なり。國の鎮め靖國神社に程近き、さる一宿に宿る。

十一月二十六日

大日本武徳殿長野支部第十五回演武大会にのぞむ。

二十五戦十七勝二引分け

参加校二十校十四團體に及びし中にて最高位をえたり。つづいて高點試合行はれたり。参加人員約二百六十名。本校の山浦君は十一名倒し、第一位となる。尚田中君も十名抜きにて第二位なり、三等ははるかに下りて、六人抜きの高見澤君なり。

山浦君は大日本武徳會長鈴木莊六大將の自筆の賞状、並びに金メダル及び其他時計を授與される。

田中君は長野支部長岡田知事の賞状及び置時計を授與せられる。

あ、遂に我等は勝ったのだ。春以來苦心に苦心を重ね、鍛錬に鍛錬を重ね、農夫がたのしい秋の刈入れをなし苦勞の花を咲かせた如く、我等もあの傳統に輝く道場で、或は帝都で高野範士の道場で苦しんだ甲斐あり、彼等の如く美事なうれしい刈入れをなし得たのである。壯行會の時に於ける松岡先生の御激勵の辭の如く我等は遂ひに「有終の美」ををさめえたのである。遂ひに我等は校友会の行事の最後を飾ったのだ。我等の起ちしより、後をふりかへれば悲しい事、残念な事があつた、然し思へば過去のすべてを清算し得たものであると思ふと、何んとなくうれしくなってくる事である。又壯行會が、いかに我等をふるはしめてくれたことか。や、もすれば學校を代表してある選手は、かつてに試合をやれと言つた様な感があつたのに、今秋よりその風がなくなり、心から我等を送つてくれた事は激勵してくれた事は何んと我等をふるひたした事か。それは事實が雄辯に物語つてゐる。諸君、我々は切に切に感謝す。それと共に諸君よ今後、つねに我等選手をばげましてくれ、そして我が校友に覇をととなへさしめてくれ。

勝たせてやりたい。努力した分ご褒美をあげたい。——しかし今年には勝てなかった。本県開催の北信越大会に団体でも個人でも出場できなかったし、六月の県大会に男女共にベスト8に入れなかったことは、私が赴任して以来初めての事。悔しかった。そして申し訳なかった。

今年の三年生男子7名女子7名は、昨年に引き続き全員二段を取得している。学業成績も良く、まさに文武両道を実践している。そして何より人物が良い。仲間を思いやる気持ちも人一倍強い。あんなに一生懸命、真面目に稽古したのに勝てなかったのは、その穏やかで性格が勝負の世界には向かなかつたのかも知れない。そんな性格を弱い・甘いと言う人がいたら、言わせておけばいい。負けを他人のせいにならず、うそをつかない人間だからこそ、自分の弱さ・不甲斐なさをごまかし切れず、負けたのだ。みんな悔し涙を流せばいい。涙を流した分、仲間の掛け替えのなさは増すものだ。——そう、掛け替えのない仲間。チームの目標はあくまでインターハイ。

しかし目的は「仲間づくり」だと数年前から生徒に明言している。仲間をつくる過程の中で、各自の人格も磨かれていく。たとえ目標は達成できなくとも、剣道班の仲間は何者にも代えがたいと言える人間に育っていくことを顧問として指導の中心にし、喜びとしている。「精魂尽くして颯爽たり」そんな言葉のよく似合う春口主将を先頭に14人の剣士が胸を張って古城の門を果立って行く日と思う今日この頃である。

平成15年戦績

Table with 2 columns: Competition Name and Results. Includes categories like 高校新人体育大会, 高校総合体育大会, 東信大会, 第一回宮下杯争奪戦, 東信高校選手権大会, 舞台が丘剣道大会, 東信青少年剣道大会, 高校新人体育大会.

竹鼻 健司 (82期)

大塚 博文 (67期)

OB会に参加して

上田高校を卒業して20年が経った。昨年、2002年は公私共に区切りとなる出来事が多く、これまでの人生の棚卸と次を見つめなおす、そんな年だった。今年になって、剣道部OB会の通知を目にした時、自分の原点を見つめなおす機会として、参加してみようかな、と心が動いた。何かがあるかもしれない、そんな気持ちだ。

「無理かな。」OB会当日の朝、前日から出張していた熊本空港では、荒天により予定していた羽田行が欠航となった。「ダメ元でも、行動してみよう。」と、熊本から高速バスで福岡へ、羽田空港から自宅に戻ったのが3時過ぎ。急ぎ、支度を整え、5時の新幹線で上田へ向かった。

「初めての参加で、遅刻とは、なんとも恥ずかしい。」そう思いながらも、会場の上田温泉を目指した。会場に到着すると、記念写真の撮影準備中。初めてお会いする大先輩方の中に、同期の近藤君を見つけ、声を掛けた。トラブルはあったものの、何とか宴会には間に合った。不思議な経験だった。久しぶりにお会いする恩師、羽田先生、長谷川先生との思い出話。諸先輩方とのお挨拶、そしてさまざまなお話。隣席となった清水先輩からは関東同窓会のことをお聞きした。いずれも、日常生活にない異次元体験だった。翌日はゴルフコンペに参加した。桑沢先輩、堀内先輩、工藤先輩との楽しく不思議なラウンドだった。

上田高校剣道班出身、という共通項からくる安心感が話の内容を膨らませ、楽しみを2倍にも3倍にも増幅するようだ。喧騒の毎日から離れた、不思議なよい体験だった。また次も、異次元の体験をしに参ります。どうぞよろしくお祈りします。



5年ほど前からOB会に参加するようになって、子供が成長し母校にお世話になるようになって、上田高校が再び身近になりOB会にも出席してしてみたくなりました。実際に参加してみると、昔とは様変わりしており驚くばかりです。一番変わった点は、女子部員が半分いることです。40代、30代のOB、OGの皆さんには当たり前のことかもしれませんが私の年代にとっては非常に新鮮に感じられました。特に私が3年生になる年(昭和43年)に、女子部員第一号が入部しており、どの様に

稽古をつけたらよいか、とまどいながら対応したからなのかもしれません。

男子部員の人数は昔と変わらず元気そのものです。古い競技(武道)ではありますが昔以上に盛んな様子を見る限り、すさんだといわれる世相も表層のことであり、若者にたくましさを感じる一日です。

OB会の前半は現役諸君との合同の稽古です。私は普段剣道と無縁の生活ですが、この日だけは防具を持ち出し、稽古に参加しています。現役の諸君と同じようには到底動きませんが、気持ちだけは若返って竹刀を振っています。高校卒業後継続的に稽古を積んでいないので高校時代と同じ剣法であり余計に疲れます。唯一対抗できるのは、体当たりです。体重だけは現役生をはるかに上回るのでよろけずにすんでいます。

後半は、総会、懇親会です。稽古で汗を流した後、大先輩を交え酌み交わすビールの味は格別です。いろいろな話題に花が咲き、思い出話ばかりでなく、新しい情報も得られ貴重な時間となっています。

年に一回だけですが、これからもOB会には参加し、稽古で汗を流したいと考えています。指導というより、一緒に汗を流させてもらうだけでありますがだんだん楽しみにってきております。

OB会の悩みのひとつは、参加者が少ないことです。幹事の皆さんもいろいろ工夫されております。まだ参加されていない皆さん、ともかく一度参加してみてください。現役生の稽古を見るだけでも元気がもらえます。防具がなくとも竹刀一本で切り返しを受けてみることで昔の稽古が思い出されるはずですよ。

活躍するOB達

システム技研株式会社

代表取締役 清水通男 (66期)

早いもので、高校を卒業して30年以上たちました。65期の若林先輩からのお電話で、私が今何をしているか少し書いて欲しいとのことでしたので、東京の状況なども含めてお知らせしたいと思います。

私が剣道班にいた頃は、メンバーも少なく、団体戦など1学年だけでは人数が足りない状況でした。今は多くの若者が剣道班におられて嬉しく思います。私が班長の時に松尾祭の演劇大会に初めて剣道班が出て優勝したことなど、懐かしく思います。出し物は「国定忠次」でした。

さて、私のことですが高校を卒業して、すぐ父が作った店(田舎のよろずや)をやらされ、6年も家の仕事をしていました。それが嫌で家を出て自衛隊(金が無くても暮らせる唯一の就職先です。)に入り、そこでコンピュータに出会いました。自衛隊のプログラマーだったわけですが、第2次オイルショックが終わり、満期退職した時は、いくらでも就職先が有る良い時代でした。2年ほど水商売の会社などで働きましたが、食えなくなるとプログラマーの仕事に付きました。沖電気で2年間電子交換機のソフトウェアの開発に携わり、その後日立製作所でSE(システム・エンジニア)として2年やりました。日立に居るときに会社を興しました。正社員でなかったから、

会社を作ることが出来たわけですよ。徹夜など当たり前前の時代で、それほど仕事があったということですよ。私も40歳くらいまでプログラムを組んだりしましたが、今では若い人たちに任せています。技術の進歩は激しく、ついていけません。しかし、技術者のマネージメントという事では、どんな仕事とも共通点があります。結局、みんな助け合っていないわけでは、良い仕事は出来ないわけですよ。

東京には上田高校出身者が多く、素晴らしい先輩方が沢山おります。長野県人会、松尾俱樂部、上田高等学校関東同窓会、東京上田会、上田郷友会などに連絡すれば、皆さん喜んで入会してくれと言われるでしょう。同窓会同士のネットワークも出ており、驚かされます。東京でも剣道班のOB会が出来れば良いのですが、誰か幹事をして下さいませんか。関東同窓会幹事会では同期の高寺君と良く会います。

年を取ると昔が懐かしくなり、そんな時同窓の友人たちに会うと嬉しいものです。私は結構いろいろな会に入っているのですが、世の中は人と人のネットワークが大切だということが分かります。国と国でさえ個人対個人の繋がりでいろいろなことが決まります。人脈が大切だということですね。

会員のひと言コラム

41期 大石 治 毎度ご苦労様です。相変わらずの体調で、歩行も気力の日々です。

44期 渡瀬 繁一 初めての御案内を頂き感謝しています。中三の四月の写真を見ると校長伊藤長三先生、他の先生諸先輩等の顔が見られます。この頃までは対外試合が行われ勝利のお迎えを上田駅で行い、尚志会(上田市内)全員で凱歌を声高らかに熱唱したものでした。

64期 宮坂昌之 6月30日からグラスゴー(スコットランド)で行われる剣道世界選手権に役員として出席して参ります。今回はその用意などで失礼します。OB会のご盛会をお祈りします。

64期 宮坂信之 東京医科歯科大学剣道部長をしています。入試面接委員もしているので、剣道班の学生さん奮って受験して下さい。

70期 須永 久 小学生の剣道クラブのお手伝いをしておりませんが、年々参加者が減り続け、今年度から隣の地区と合同で練習することになってしまいました。

75期 竹内幸隆 高校を卒業し26年、最近では体力の衰えを感じる機会が多々あります。現在はパイオニア(株)のケーブル&サテライトシステム事業部に在籍しております。上田の道場を懐かしく思い出しております。

76期 小野満也 佐久病院でリウマチ内科をやっております。学会で宮坂信之先生にお会いできありがたいことです。

宮下杯 優勝者

三年 新井雄太

剣道を通じて肉体的にも、精神的にも多くのものを得ることができました。その中でも特に、かけがえのない「仲間」を得たことが一番の宝物です。この仲間達と高校での剣道生活のしめくくりとして宮下杯で試合をさせていただ



「現役生の声」

班長 春口達磨

一年間班長を務めて今正直に思うことは、「けっこうきつかったな」ということです。…情けないことですが、何しろあの上田高校剣道班の班長です。誇りと同時に不安があったのも事実です。自分の中では、班長は強い!という構図ができていたのですが、そのギャップに悩み、現状を理想に近づけようと焦っていた時もありました。そんな時に助けてくれたの

たことも、また一つ深く心の中に刻みこまれました。このような栄えある機会をつくって下さったことを心から感謝しております。

三年 大森 碧

最後の大会で結果が残せなかった私は、引退後も悔いが残ったままでした。それだけに3年として最後の試合となるこの宮下杯にかける思いは誰よりも強かったと思います。諦めない、勝ちたいという気持ちで試合に臨み、そして優勝できたことは私にとって大きな自信になりました。宮下杯第一回の優勝者として名前を刻むことができ、光栄に思います。

(83期) 矢嶋智弘

年末、年始は何かと集まりが多いかと思います。そんな時、ちょっとしたトリックで、話題を作りましょう。

現象

一円玉をよく見せて、手の中のみみます。すると一円玉が消えては仲間でした。皆との絆を深める中で、私は自分が班長としての満足のために剣道をやっていたことに気付かされました。チームよりも個人の方が先走っていたのです。もし仲間の支えがなかったら、私は本意な形で高校での剣道を終えていたでしょう。

もう一つ仲間から学んだのは、努力の当然さです。皆結果が全てではない事と同時に、努力がすべてではないという事を知っている、妥協を許さない人ばかりでした。結果的にはよい成績を得られました。

なくなり、両手はからです。袖をまくってもできません。

方法

アルミホイルで偽一円玉を作ります。(違法では有りませんが)本物の一円玉にアルミホイルの裏の光らないほうを乗せ、消しゴムの角なので上からこすり取ります。するとアルミホイルが一円玉の形が移ります。端をきれいに丸く切り取って出来上がり。相手に見せて(裏は見せません)、手の中でアルミを小さく丸めます。両手をパルパンと払って消す動作で、捨ててしまいます。(小さいので気づかれませんが)バーなどの少し暗がりの中でやれば完璧です。いかがでしょうか?意外と驚かれますよ。私はおもむろに"お金を使ったマジックをやります。元に戻せないマジックなんです被害額を最小限にするため一円を使います。一瞬なのでよく見てみてください"と言ってやります。ゆっくりとオパーアクション気味にやるのがコツです。

来年度のOB会は6月26日(土)です。

編集後記

不慣れなこともあり、「剣風」の発行が例年より遅れてしまいました。会員の皆様には、大変申し訳なく思います。今年度のOB会は、OB会の使命の一つでもあります。「会員相互の、会員のための人的ネットワーク創りと情報交換の場」を構築し、それを発展させることに重点を置いて運営をしていきたいと考えております。その手始めに、各地、各分野でご活躍の会員のご紹介と、ご本人よりの寄稿を掲載致しました。今回は、ご自身で企業を起し、また同窓会・上田出身者の会等々でご活躍の清水君にお願いを致しました。

剣道に限らず、どの様なことでもかまいません。会員にとってプラスになること、会員に知らせておきたいこと、自分のPR等々、どうぞ奮ってご投稿下さい。また、あの先輩に聞きたいこと、あの先輩を紹介してほしい等のご要望など、お早めに役員の耳に入れていただければと思います。

新年会のお知らせ

日時 一月二日 午後五時三十分
会場 ホテル祥園(上田温泉)
当日は午後三時より 上田高校第二体育館にて OB・現役生合同稽古会を行います。

問い合わせ先 幹事 田中利明
090-88848-6384

会費納入のお願い

会費(三千元)納入は三月三十一日までに納入してください。

○連絡先変更の方は幹事長までご連絡をお願い致します。
幹事長 若林 健
02698-222-1589
〒386 0012 上田中央一・四・一三
E-Mail: wakabayashi@obedden.jp